

巻頭言

名古屋学芸大学健康・栄養研究所
所長 下方浩史

昨年までに比べて遅れましたが、今年も健康・栄養研究所年報の第8号を無事に発刊することができました。第8号では原著4編、報告6編の論文を掲載しています。本誌は名古屋学芸大学健康・栄養研究所の研究や実践活動の成果の発表の場であるとともに、その成果を広く社会に知っていただくために発刊を続けてきました。2009年から、本誌は医学中央雑誌データベースに定期刊行物として収録され、医中誌 Web でも検索できるようになっています。

原著では「日常運動が生活習慣病患者の安静時エネルギー消費量に及ぼす影響」、「栄養食事指導結果からみた糖尿病腎症第2期における栄養指導のあり方の検討」、「小学生における家庭での“食事の楽しさ”とその要因—愛知県N学区小学校5年生の事例—」、「食育の学習評価に『観点別学習状況の評価』の視点をとりこむことの可能性の検討（その2）『さかな丸ごと探検ノート』を教材とする授業実践での検討」と、栄養指導や運動指導の具体的なあり方、食育の事例など、教育や指導の現場からの研究の成果を掲載することができました。

報告では、厚生労働科学研究から「地域在住高齢者における高齢者特有の病態の発症を予測するための健診項目選定に関する研究」、研究所が開催した研修会、勉強会からの報告として「実務者のための栄養ケアマネジメント研修会（臨床栄養学）報告」、「『安全衛生と品質管理に関する勉強会』実践報告」、「『食の安全・安心タウンミーティング』報告」、「『HACCPの考え方に基づいた衛生管理』研修報告」、そして食育のための資料の紹介として「『食育基本法』前文の英語訳案を食育等の議論に活用してほしい」と、研究所の多彩な活動を紹介する論文を掲載できました。

栄養は生命活動を支える基本的な要素であるとともに、健康を守り、生活を豊かにして、さらに文化や創造性にまでつながっていく要素でもあります。栄養科学研究は、私たちの生活に密接に関わるものであり、その成果を応用していくことが重要だと思えます。本誌が少しずつでも栄養科学研究の進展に役立っていくことを願っています。